

平成 30 年度 西三河地域産業労働会議における主な発言要旨

日時：平成 30 年 8 月 28 日（火）

午後 2 時から午後 4 時まで

場所：愛知県西三河総合庁舎 7 階 701 会議室

（地域の現状）

- ・過疎化に歯止めがかからない状況であり、事業者がどんどん減少し、地域の活力がどんどん失われている。商業・サービス業はかなりの廃業があり、買い物は県外にまで行ったりする状況で、住民が非常に不便を感じている。
- ・新規償却資産取得補助の設備投資額をみると、ここ 3 年位はそれ以前の 1.5 倍位の設備投資がなされていると認識しているが、一方、生産ラインを拡張したいが工場用地がない、人が採用できないという意見も聞いている。
- ・中小企業振興基本条例を制定し、振興施策のための会議を開催しているが、その中で中小企業へのアンケートを行った結果、人手不足と事業承継に問題があるということだった。
- ・引き続き持続可能な街づくりや企業立地のための誘致施策を進めていくためにも、労働と住居確保の環境整備は必須と考えている。

（イノベーションの推進）

- ・県が示したビジョンは、理想としてはこういうものになると思うが、この理想どおり進んで行ける企業はかなり少ない。IoT や EDI（電子データ交換）の取組を支援しているが、IoT を活用したら生産性がこれだけ上がって、今まで 3 人だったところが 2 人でもやっていけるという話をしても、IoT を活用してやっ払いこうと手を挙げる企業はほとんどない。
- ・ビジョンのイメージするものは本当にできることなのか。現場の声を聞いてでき上がってきたものなのかというところが大事である。
- ・企業の実態としては、目先の人手不足があるため、EV や IoT の話は感覚として遠い感じがする。また、IoT にしても、それを扱える人材がいないため、結局、「人」である。大きな流れとしてはビジョンのとおりだが、中小企業にとっては現実的でない。
- ・自動車産業は 100 年に一度の大変革期と言われるが、言葉だけが先行しており、製造業の中でどの程度浸透しているかは疑問であり、まだそういう状況ではない。実態は目の前の仕事をどうこなしていくかで精一杯であり、AI や IoT まで手が届かないのが現状である。
- ・イノベーションの促進については、「EV 化により自動車の概念が変わっていく」、「働く者も意識を変えて危機感を持たないとこの先生き残れない」という話をしている。なかなか実感が湧かないという声がある一方で、企業の中でもすぐ先の話だということで実際何をやっていかなければいけないのかという話を進めている。
- ・スタートアップについては、難しいかもしれないが、県、市など地域でグループを作って出資する仕組み等、ひとつ核を作っていき感じで伸ばしていけるのではないかと。

（中小企業に対する支援）

- ・河川による水害や東南海・南海地震でサプライチェーンは止まってしまう。県では BCP 策定支援など行っているが、新しいビジョンでは、もう一步踏み込んだ中小・小規模事業者の防災に対する支援策をお願いしたい。
- ・中小企業で働く若い技能士を讃える表彰制度を新たに設けて、そのモチベーションアップを図ってい

る。愛知県に「愛知の名工」という制度があるが、その前段階として若い技能士のモチベーションをアップする。

- ものづくり補助金等いろいろな支援制度があるが、情報の伝達（提供）方法についても考えてもらえるとよい。

（次世代産業の育成）

- 中国がEV化を急速に進めており、中小企業は自動車産業の先が見えないという不安を持っている。次世代産業をどうするかは非常に難しいが、その辺りをしっかりやっていただきたい。
- CASEを含めた技術支援は、情報が系列できっちり守られていて外には出てこないため、そういったところでいかに支援ができるのか。

（人材不足対策）

- 人手不足が非常に大きな課題となっているが、従来のような求人サイトや合同企業説明会では採用が非常に難しくなっている。首都圏から戻ってくるUターンの採用拡充がもっと必要であり、県として新規の施策をお願いしたい。
- 生産年齢人口の減少を背景とした人手不足については、多くの中小企業が一番に挙げる課題である。セミナー、補助制度、市内での合同企業説明会などの取組を実施しているが、課題解決には至っていない。今後も人材の確保・定着に向けて対応策を検討し、実施していくことが必要である。
- 人手不足が深刻化している。働く側が企業を選ぶ時代に大きく変わってきていると実感している。
- モノづくり産業の人手不足については、なぜ人手不足なのかというところを視点にしてほしい。昔は子供がプラモデルなど、何かを作るという経験をしている。モノづくりの方向性を出していくような、部局を超えた施策もビジョンに入れてほしい。
- 女性の就労については、非常に危機感を持っている。今、女性の労働力が求められているが、女性が製造業の現場で働くことはなかなか厳しい。保育所など福祉関係を充実させる必要があるが、イノベーションの推進など「横串」と言われているところは、福祉にも関わってくると感じている。
- 生産年齢人口の減少に対して、高齢者の活用があるが、技能職の場合、高齢者が製造ラインの中で20歳そこそこの若者と一緒にモノを作ることになり、非常に厳しい。
- 外国人雇用に頼らざるを得ない。自分の工場でもいろんな地域の外国人が働いているが、やはり言語の問題がある。標準作業をモットーに作業を教えていくが、言葉が読めない。通訳はいるが、製造業を長年やっている中でのノウハウを、通訳としてしっかり伝えていくというところまで至っていない。通訳の人材不足でもある。

（働き方改革）

- 働き方改革では、中小企業は経営資源、特に人と金が限られた中で設備投資、人材育成、従業員採用をしなければいけないという現状を踏まえ、会議所としてもいろいろな支援をしているが、県にも協力をお願いしたい。